

15年ぶりに母校であるメルボルン日本人学校(以下メル校)に戻ってきました。

1992-1995年の3年間に在籍していたのですが、走馬燈のように3年間に蘇ってきました。私は色々な学校を転々としてきましたが、一番記憶に残っているのが、メル校です。なぜなら、今の自分の土台が作られたのが、メル校だったからです。

私が当時在籍していたときは、一クラス10人程度しかいませんでした。10人しかいないため、みんな兄弟のようなものです。同学年だけではありません。サッカー、バスケットをするにも人数が少ないため、他学年ともいつも一緒に遊びました。この絆は日本に帰っても繋がっています。年に一度同級生と再会したり、去年は同窓会にて100人近くのメル校卒業生が集まりました。商社で世界を舞台に活躍している友達はたくさんいますし、ある先輩は芸能界で活躍されたり、ある友達はデザイナーになったりしています。みんなメル校にいたときと同じように、生き生きとした顔で世界で活躍しているようです。メル校で培った絆は私の宝となっています。

メル校では現地校との交流学习もありました。引っ込み思案で田舎出身だった私は、英語を話すことが大きなハードルでした。熊本からメルボルンに来ただけで、共通語(日本語)を話せるのか不安だったにもかかわらず、英語のハードルと言ったら想像を絶していました。それを何とか克服することができたのが、交流学习でした。交流学习で悟ったのです。上手い英語が話せなくても、一緒に遊べる、バスケ、サッカーができる、と。悟ってからは、現地のサッカークラブに入って、ボディーラングエッジの技術も磨きましたし、いろいろと交流を深めることができました。このように、メル校で日本と同等の教育を受けながら、メルボルンに住んでいるという環境を活かした教育を受けることができたのは、今考えると本当に幸せなことでした。

メル校での少人数教育も私にとって非常に幸運でした。私は現在医師です。国立の医学部を目指すに当たり、受験勉強は非常に険しい道りでした。しかし、メル校で培った基礎力のおかげで突破できたと考えています。少人数教育は学習効率ももっともよい教育だと私は思っています。なぜなら先生に一人一人の学習状況をしっかりと把握してもらい、質問がしやすいからです。メル校はそのような環境でした。分からないところがあったら、質問して妥協せず、最後まで考えぬく習慣をメル校で身につけることができました。もちろん、少人数だからできたのではなく、日本から選抜された向上心のある先生たちのおかげだと思っています。



このように、私はメル校から様々なことを学び、成長することができました。それは在籍していた友達、先輩、後輩、みんなが口を揃えて言います。今在籍している後輩へ最後にメッセージを送ります。今メル校で送っている時間は必ず宝となります。今過ごしている時間を思いっきり楽しんで下さい。何でもやって下さい。それができる環境だと思います。そして、将来日本でメル校同窓会が開かれます。その時にあなたのメル校武勇伝を聞かせて下さい。同窓会でお会いできる日を楽しみにしています。